

区長面談の記録（2006年6月15日、区長室にて）

○「みなさんに不快感を与えたという事実について、お詫びしたい。」

平野 すでに提出している要望書の回答をいただきたい。私たちの提出した要望書は読んでいらっしゃるよ、いますよね。

区長 私のところへ届いたものは、それぞれの所管が組織で対応しています。彼らは私の代行として動いているので、私が直接会わなくともその人たちがあなた方に話し、それが私のところに帰ってくるというやり方になっているのです。

大木 担当部署の人は、「街づくり懇談会があるのでもうすでに民意は聞いている」と異口同音に言っています。しかし、懇談会は非公開・自由参加なしなので、街の民意を救ってきたとは言えず、担当部署の見解は事実には則していない。街づくりに民意を反映させなければならないことについて、区長はどのように考えるのですか。

区長 北沢総合支所でみなさまがたの意見が無視されたというような取り扱いがなされたことについて、首長としてお詫び申し上げたい。これはどこの地区もそうだけれども、その支所長は私に代わって対応しなければならないというのは区の方針ですから。

平野 僕らが会いたいと言って、年末から何日もの候補を設定して、会いたいと言っていたのに回答がなく、1月18日に私たちは区長に要望書を届けに来ました。しかしそのとき、区長室長は11～2月が年末年始で忙しいから会えないと回答した。私たちが区長に会いたいということを、区長は知っていたのですか。

区長 建設業界の新年会に行ったことは、責められるべきことではないでしょう。

平野 そうですが、2月には事業推進を求める商店会と会っているじゃないですか。

区長 懇談会の話？小清水さんに会った話？

久山 そうです。私たちには忙しいとおっしゃっている一方で、事業推進を求める商店会連合会には会っておられます。その対応の差がどこから来るのか？という問題です。

区長 差別して会うとか会わないという問題ではありません。

○「所管からそのような話はまだ来ていないので答えられません。」

久山 このように4ヶ月待たされてきた経緯があり、担当部署である街づくり課がその間明確な回答をしてこなかったわけです。首長である区長は担当部署に代わり、回答する責務があるのではないですか。

区長 回答はしません。なぜなら、担当部署から報告は受けているけれども結論が出ていないからです。

大木 連合会との対応のいかんともしがたい落差はどのような事情に拠るのですか。

区長 私は12月から2月ころまでは、時間がないほど忙しい。なぜかという、各所で新年会をやっているからです。新年会をやってくださっている方々は、世田谷区政をしっかり支えてくださっている方々です。その方々に日ごろのお礼を申しながら、ときには要望を聞くこともありますけれども、そういう気持ちで私は出来る限り現場に出ている。

大木 総合支所は同じことを金太郎飴のように繰り返し、回答をはぐらかしてきた経緯があるのです。これを踏まえて、今日首長として回答する責務がある。

区長 私が皆様方に結論として申し上げることはありません。しかし、私がお会いしないとおっしゃるので、会っているのです。

久山 先ほど「結論が出ていない」とおっしゃいましたが、下北沢フォーラムが今朝街づくり課に会い、「ラウンドテーブルは設置しない」という回答をされています。私たちは要望書でラウンドテーブルの設置も求めてきましたが、この点についてはもう結論が出ているのではないですか。

区長 所管からそのような話はまだ来ていないので答えられません。

○「みなさんお帰りになったら、『区長に直接申し入れた』ということをお伝えください。」

大木 ラウンドテーブル設置のイエス／ノーのご返事はいつされるのですか？

区長 いつということは答えられない。再開発するかどうかに関しても、私は区民の財産と生命を守ることを区政の最優先課題としています。だから、あなたがたの要望に「はいそうですか」と従うわけではないということもご理解いただきたい。

大木 再開発されると、大手資本が入ってきて、私たち小規模経営の商業者はかなり逼迫してしまう可能性が高い。現実には街づくっている私たちは、当事者です。今日は、そういう人たちの代表として来ているのです。少なくとも、区長さんが現段階で申し述べられる回答をいただかねば、我々は何のためにここに来たのか意味がわかりません。

区長 私は下北沢を愛しています、都議会議員のときからとてもよく行っていました。それは好きだからです。だから、街をよくしたいということではみなさんと一致している。その手法がどのようなものがふさわしいかということについては、私は今日みなさんから始めて生の声を聞かせていただいた。とにかくお会いしたわけです。みなさんのお話を初めて聞かせていただいたわけです。

大木 今まで同じことを再三、要望書で私は申し伝えてきましたので、「初めて」という言葉は納得しかねます。

区長 今は結論が出ていない段階ですので、今日みなさんのお話を伺っているわけです。

平野 結論が出ている段階ではないので、これから住民や商業者が一堂に会して話し合うラウンドテーブルが必要ですよね。区長さん、必要だとお考えになるか、イエスかノーでお答えください。

区長 検討させていただきます。

平野 検討って、国会答弁じゃないんだから、困ります。区長さんはどう思うんですか？答えられないなら一般的でもいいです、みんなが話し合うための場って、必要ですよね？

区長 今日あなたたちにお会いしているのは、一市民としてではないのです、区長として会っているのです。区というのは組織があるのですから、私はこの問題については北沢支所長に、検討するようにということを指示しているのです。まだ「こうしたいです」という報告を受けていないから、今日の話は踏まえた上で決めさせていただきます。

大木 区政はリーダーを取る区長が自分の意見を申し述べるのは、自由なのではないですか。区長の考えが、区政に反映されることがあってしかるべきなのではないですか。それゆえに、区長が代われれば区政が変わっていくのではないですか。

区長 私もこの三年、区をいろいろと変えてきたのです。今日いずれにしても、初めて生の声を伺いました。ですからその声を踏まえて、所管と話をします。

大木 担当部署に同じ言葉を原稿を読むような口調で伝えられるということ、これまで幾度となく繰

り返してきたのです。今回区長さんに直接会えるので、多少の期待はしてきたわけです。我々は4ヶ月待たされてきたわけですから、区長さんなりの熟考を重ねたご意見を聞かせていただけたらと思い、来たわけです。区長さんは初めてお会いするとおっしゃいますが、私たちは要望書を出してきたわけですから、回答は出来るのではないですか？

区長 私は、今日は回答できません。みなさんお帰りになったら、「区長に直接申し入れた」ということをお伝えください。「区長が検討すると言った」ということもお伝えください。所管の長に、今日こんな話を聞いたよということを伝えた上で、早急に検討し結論を早く取りまとめるようにと指示し、それを返事させていただきます。

○ 「最後には、私が責任を持って決断をします。」

平野 5月26日に説明会があり、100人以上の人間が中に入れなかった。にもかかわらず、担当部署は「説明会は成立した」と見なしています。これについて、区長はどう考えますか？説明会は成立したとお考えですか？

区長 私は現場にいなかったですが、担当部署から連絡は受けています。

久山 成立したのかしていないのか、イエスかノーでお答えいただけますか。

区長 成立していると思いますよ。

平野 僕は東会に入っているのですが、この件に関して書類ひとつ回ってこない。それなのに、商店会を介して説明は済んだなどと言っている。あなたは先ほどから担当部署の報告を鵜呑みにするだけだ。じゃあ、何のために今日我々に会っているのですか。

区長 だから、今日はみなさんの話を聞くために会っているのです。とにかく支所長に早急に取りまとめを出すようにということを指示し、時宜を見てあなた方にご連絡します。

久山 先日の都市計画審議会で、慎重に審議すべきだという意見が多数だったのです。この意見を踏まえてどのように思われますか？

区長 詳しい報告を受けていない。意見がまとまってきているということは聞いている。

大木 まとまっているというのは、「慎重な審議が必要である」ということでまとまってきているのです。

区長 ある程度まとまっているという報告は受けており、その時期に向けてそれは進めていく。その前に、あなた方の意見を聞くなどしているわけです。

平野 慎重に、ということですか？

区長 そうです。

平野 じゃあ、計画はいったん止めるわけですね。

区長 いや、それはないです。

平野 それは、慎重ではないではないですか。

区長 あなたは進めることは慎重じゃないと言うが、他の人はそうではない。

平野 だって、今都市計画審議会でも、もう一回慎重にと言っているのだから、計画はストップさせる必要があるではないですか。

区長 慎重に考えた上で、進めるという選択肢もあるでしょう。

大木 だから、賛成の人も含めてラウンドテーブル作りをしましょう、とさっきから再三申しているわけじゃないですか。街づくり懇談会が上げてきた地区計画プランだから、粛々と進めて構わな

ということですか？慎重な審議を求めるといふあらかじめの意見が、都市計画審議会や都市整備委員会から上がっているわけじゃないですか。ですから、慎重な審議をするためのラウンドテーブル設置を、区長主導でやってください、というわけです。

区長 最後には、私が責任を持って決断をします。しかし、それまでは所管が大事です。

大木 これは（「下北沢フォーラム」の資料を見せながら）、専門家グループの「下北沢フォーラム」というところが相当な努力の結果、調査をしました。このように、現在の計画はおかしいという意見が過半数を超えてるわけですよ。それから、「もっと十分な審議をすすめるべきだ」という意見が70%も出てるわけですよ。

区長 これは回収率の中身の人の意見でしょ。参考にはするけど、これだけじゃないよね。

平野 こういうアンケートを、区がされてはいかがですか。

区長 だから、「検討する」と言ってるじゃない。今日お会いして私もある程度、認識をもちました。その認識をもとに、所管を呼ぶなりして話をし、また指示もして、それでまとめさせたものをもって、お会いいたします。いつまでに、ということではなく。

平野 アバウトな日程でいいですから。

大木 例えば、次回の都市計画審議会までにということとはできないですか。

区長 とにかく、所管と早急に会います。そして、早急に対応させてもらいます。

大木 今朝9時半から行われた「下北沢フォーラム」が拠点整備一課と会った報告を、記者会見がありましたからそばで聞いていたら、「下北沢フォーラム」が作った「市民案」は検討対象にならない、だからあなたたちの聴く耳は持たない、と言っているわけです。

区長 そこは言ってるけど、私はそうじゃない、と言ってるの。

大木 そこらへんに齟齬があるのですね。